

# 東海光学株式会社



開発力で業界をリードする  
独立系眼鏡レンズのトップメーカー

地域の活性化を先導する

ザ・リーディングカンパニー 第10回

## COMPANY PROFILE

愛知県岡崎市恵田町下田5-26

創業 昭和14年3月 従業員 400名 (平成29年現在)  
年商 100億円 (平成28年度) 資本金 1億円

昭和十四年創業の眼鏡レンズ専門メーカー。ガラス、プラスチックレンズの素材開発から設計、二次加工、販売までの一貫体制を構築。近年では、脳科学眼鏡レンズはじめ、ルテインの損傷を防ぐケアレンズ、世界一の屈折率を誇るプラスチックレンズを商品化。眼鏡レンズ製造で培った真空蒸着技術を活かし、光学薄膜製品の開発・事業化を積極展開し、映像や通信機器、分析機器などの最先端分野で独自の技術力を発揮している。

眼鏡レンズを製造する東海光学の本社・工場は、岡崎市の北西部、緑に恵まれた花園工業団地にある。創業したのは名古屋市だが、戦争中に岡崎市へ疎開、平成二年、当地に本拠を移転した。「祖父が初代、祖父の弟、私の父親が歴代社長を務め、私が四代目です」と、古澤宏和社長。すでに社歴は七八年を数え、一〇〇周年が視野に入る名門企業である。

社名も「東海地区でナンバーワンになる」という気概で名付けたそうだが、今やマーケットは世界五七カ国に広がり、グローバル企業へと進化。ベルギー、イタリア、イギリス、アラブ首長国連邦、そして中国に販売拠点や関連会社を設け、着々と業績を伸ばしている。国内に限れば、眼鏡レンズのマーケット規模は縮小傾向にあ

る。「今から二〇年ほど前、平成七年に約六〇〇億円だった小売りの市場規模は、現在は四〇〇億円程度になっています」と古澤社長。人口減少、コンパクトレンズの普及、海外の格安品による価格の下落など、逆風によって「失われた二〇年」と業界関係者は呼んでいるようだ。撤退するメーカーも相次ぎ、今ではH O Y A、ニコンエシロール、S E I K O の総合光学メーカー三社と、独立系の専門メーカー東海光学が市場のほとんどを占有。東海光学のシェアは約一七％に達する。

「眼鏡レンズは成長産業なんです」と、古澤社長。国内では高齢化が進み、眼鏡を必要とする人が増加する一方、海外では未だ眼鏡を持ったことのない人が数限りな